



健康的な天然木材の床

フローリング・ニュース

発行所：一般社団法人日本フローリング工業会
編集責任者：広報法務委員長 石本勝範

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル 6F
TEL 03-3868-0971 FAX 03-3868-0972 <http://www.j-flooring.jp/>



フローリング張り標準仕様書は業界のスタンダード



「フローリング張り標準仕様書」講習会開催

「フローリング張り標準仕様書」講習会が東京、大阪、名古屋で開催される

東京の講習会は、平成27年11月11日(水)に130名が参加して開催され、久津輪会長から「工業会が発行した標準仕様書は JAS の改訂ごとにこれまで10回改訂され、フローリング施工のスタンダードとして業界に定着している。本日参加の皆様も平成27年版をしっかりと理解して頂き安心・信頼の施工を提供していただきたい」と挨拶。

講演では、梅野技術委員長と外瀬技術委員長代理から今回の改訂のテーマである JAS 改正とメンテナンスに関する箇所を中心に説明があった後、公益財団法人 木材・合板博物館岡野館長から板材のササクレなどについて木材物理学の観点から解説があった。また、この後国土交通省建設市場整備課の荒井課長補佐から平成29年度以降において、健康保険、厚生年金保険、雇用保険に未加入の企業は下請け企業として選定しない、また、適切な保険に加入していない作業員は現場入場を認めないとする社会保険の加入に関する下請け指導ガイドラインの説明を中心として、法定福利費の確保の取り組みの講演があった。

大阪の講習会は、平成27年11月20日(金)に100名が参加して開催され、東京の講習会と同様に久津輪会長の挨拶、梅野技術委員長、外瀬技術委員長代理から標準仕様書の改訂内容の説明のあと、佐藤工業(株)の佐藤社長からフローリング工業会の歩みの講演、池見林産工業(株)の久津輪社長(工業会会長)から、国産材に付加価値を付けて加工した製品を輸出することの重要性について講演があった。

名古屋の講習会は、平成27年5月13日(水)に40名が参加して開催され、梅野技術委員長から、標準仕様書の今回の改正テーマである JAS 改正とメンテナンスに関する箇所を主体に詳細な説明があった。



平成27年度施工流通部会開催される（施工流通部会）

平成27年10月15日（木） 開催

厳しい業況報告相次ぐ

福岡県博多近郊のホテルにおいて

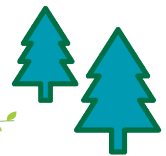
平成27年度施工流通部会が32人が参加して開催された。

森施工流通部会長の挨拶: 建設業は昨年まである程度は盛り上がりも見られたが、今年は大変厳しい冷え込みの中にある。2020年の東京オリンピックに向けて少しでも盛り上がることを期待したい。また、大手ゼネコンが法定福利費について厳しく対応するとみているので、我々会員はこれに追従しないと生き残れない。最近の問題では、体育館床のササクレ問題があるが、これには危機感をもって対応する必要がある。



福岡で施工流通部会
=平成27年10月15日午後4時

事業報告、事務局報告があった後各地区の情報交換があり、各地区の支部長から例年に比べてピークアウトが早い、前年度比70~80%程度の仕事量で厳しいとの報告が相次いだ。また、業況が厳しいので会員は仕事力、商品力を磨いて頑張るしかないとの意見もあった。



木質フローアーに関連するトピックス

公共建築物等木材利用促進法の効果と分析

2010年10月の公共建築物等木材利用促進法の施工によって非住宅の木造建築物が増えてきた。この法律では、原則公共の低層建築物は木造とし、木造で建築することが難しい場合は内装木質化などの木材利用の促進を図ることが求められている。

なぜ国が法律を作ったまで公共建築分野での木材利用を促進しようとしているのか。それは木材利用が地球温暖化防止に寄与し、低炭素社会の構築に貢献するという大きな目標があるから。

木造建築を推進する流れは日本だけのものではない。欧州や北米でも木造建築物が今や活発に建てられており、規制緩和と技術革新で高層木造建築物や巨大な木造ショッピングモールなども建設されている。

では、なぜ公共建築物の木造率は低位にとどまっているのか。

まず、これまで公共建築物はRC造やS造が中心だったため、木造に不慣れなことがあげられる。木造は値段が高いというイメージが強く、納期や地震などの災害に対する安全性などへの不安もまだある。

また、地域の木材を使って木造建築物をたてようとした場合、構造計算ができる人が少ない。施工業者が不慣れなことに加え、地元の木材を使おうとしたら量が集まらない、先行・分離発注を求められるなど、面倒なことも多い。

こうしたことから今後、公共建築物の木造化を普通に行えるようにするためには、まずは木造に詳しい構造設計者を育成することが必要だ。そして各地で公共木造建築物が建設され、実例が積み重なれば、様々のケースに即した手本ができていく。

マイナンバー制度の基礎知識

事業者の全てに適用されるマイナンバー制度(平成28年1月1日から)

マイナンバー(個人番号)とは住民票を有する全ての者に1人1つの番号(12桁)を市町村が付し、年金資格取得などの社会保障、所得税納付などの税、被災者支援金給付などの災害対策の分野に活用するものです。

全ての事業者は、役所に提出する税務・社会保険関係の書類に個人番号、法人番号(国税庁が付ける)を記載しなければならないことになりました。

マイナンバーを記載する時期については、書類によって異なり従業員・扶養親族の税務の書類(源泉徴収票、申告書等)については2016年分の調書から個人番号を記載、社会保険の書類(健康保険組合や年金事務所、ハローワークへの提出書類)については、雇用保険は2016年1月から、健康保険・厚生年金保険は2017年1月から個人番号を記載します。

従業員から個人番号の提供を受けるに当たっては、利用目的を特定して本人に通知し、事務取扱担当者が従業員の本人確認できる場合は、書類による確認は省略できます。

個人番号を取り扱うにあたっては取扱規程の策定などの安全管理措置を講じる必要があります。

理事会報告

平成27年7月17日(金)

7月理事会開催される

平成27年7月17日(金)に7月理事会が開催され、フローリングの緩衝材等を生産販売している藤本(株)とフローリングの塗装剤等を販売している中国塗料(株)の賛助会員入会が承認された。

平成27年度林野庁補助事業「木づかい協力業者による木材利用の促進事業」を木質フローリング検討懇話会のメンバーが木づかい協力業者として木造住宅ワークショップ事業に協力することになった。木造住宅ワークショップは、会員の(株)中島工務店が東京新木場に自費建築する加子母材利用モデル住宅の建築過程を活用して実施する。

各支部長の報告では、今年の4月～6月は厳しかったが平成28年の4月～6月は今年よりも厳しいと予想されるので、今後はリフォーム、非住宅の分野を攻めていきたい等の報告があった。また、文教施設への木造化では「1園1室木質化推進」のPRの重要性について報告があり注目された。



東京・後楽にある林友ビルで開催された第2回理事会
=7月17日午後1時12分

平成27年12月10日(木)

12月理事会開催される

生産部会と各支部の合同PRのテーマを事前に広報法務委員会で検討

平成27年12月10日(木)に平成27年度第3回理事会が開催され、技術委員会から体育館ササクレ問題について、平成28年度の重要テーマとして東京で講習会を開催するほか、消費者庁のヒヤリングが当工業会に対し行われる場合には梅野技術委員長、森施工流通部会長、外瀬技術委員長代理、日比野専務理事の4人で対応するとの報告があった。

毎年東京、名古屋、大阪で行っている生産部会と各支部の合同PRのテーマを事前に広報法務委員会で検討することになり、このための第1回同委員会を3月4日に開催することになった。

また、(一社)フローリング協会から申し入れのあった「フローリング張標準仕様書平成27年度版を(一社)フローリング協会のスタンダードとする」ことについて了承された。

さらに、平成28年度の総会を平成28年3月4日(金)に東京の浜松町東京會館で開催することが決まった。



中部支部だより

大場 晃 中部支部（天龍プレパーク株式会社）

中部支部長を拝命いたしまして来年2月の総会にて早や一年を迎えます。前支部長であられる佐藤工業(株)佐藤社長様及び中部支部会員の皆様のおかげを持ちまして、この一年を走ってこられた感です。さて、当東海地区に於ける景気ウォッチャー調査によりますと、直近11月の現状判断DI(3か月前と比較しての景気の現状に対する判断:各分野計)は2か月ぶりに低下、横ばいを示す50を4か月連続で下回っておりますが、その数値は微減で推移しており、東海経済については「景気は横ばい圏で推移しており、弱い動きが続いている」と言えそうです。先行きについては、中国経済の減速が懸念材料ではありますが、当地区経済の中心となっている自動車産業の活況が下支え要因と考えられます。…と、ここまではマクロ経済的な視点でのレポートで緩やかな回復基調が続いており、雇用の改善への期待等がみられるなどと予想できますが、肝心のわが業界においてははどうでしょうか？

慢性的な円安による資材コスト高、TPP交渉締結に合わせ現地広葉樹伐採制限強化による相対的輸入量の減少、政府建設投資額の対前年伸び率の低下などの大きなうねりが存在している反面、適正な品質に値する適正な利益が得られない現状が続いていると思われます。合わせて体育館のササクレ問題による木質フローリングへの問題提起、杭工事の偽装問題を受けて品質管理の更なる強化を求める声により、監理技術者の資格を持つ人材配置の再考、建設業界への若手の入職不振などなどインフラ整備も急務な状態です。ハード面のみならずソフト面での充実が望まれます。我々中部支部ではまずは地元から様々なアイデアの発信を行い、工業会全体に貢献できればと思っております。イギリスのロックバンドでクイーンの「ブレークスルー」という曲があります。打開策や突破口を探し出し、転じて急成長を成し遂げよう！って感じの内容です。是非そうなりたいものですね。

ひとこと

大場 晃 中部支部（天龍プレパーク株式会社）

皆さんのオリジナルは何処ですか？

私は当地、浜松の生まれ育ちで現在も単身赴任ながら拠点としております。父親の仕事の関係上卒業するまでは県内の各所をウロウロ、入社後も転勤転動で8か所の異動。国内外問わず様々な場所で過ごしてきました。環境の変化に即、順応できる様になったのもこんな暮らしを続けてきた所以なのではないでしょうか。

とは言ってもやはり愛着のある場所は地元ですね。今年はお世大名康君が「ゆるキャラグランプリ2015」を獲得。最近では「浜松出世音頭」なる曲もお目見えしまして♪はままつ〜いちどはお〜い〜で〜、うなぎにすっぽん、ぎょうざにフグ、あさりにみかん、しらすにお茶〜……などと師走の街中で鳴り響いております。なるほど、そんなに住みやすい場所なのか、と改めて当地区を見直していましたがなんと日本21大都市の年齢別人口転出入超過数(2011~14年計)でワースト2が静岡市、ワースト3が浜松。静岡連合が堂々の下位占有となっています。静岡、浜松などの地方都市に共通する要因があり、第一にいずれも製造業が盛んな都市であり、製造業の海外移転を反映して雇用吸収力が低下した。第二に、近隣にさらに大きな都市がある為、進学・就職年代がむしろ転出超になっている点でしょう。浜松の隣にはあの大都市「名古屋」がこれに当たりますよね。しかし、前述しました「中部支部だより」でもレポートしました様に静岡市も浜松市も「ブレークスルー」する為に県内他市町村と結びつき「ファルマバレー(医療・健康関連)」、「フーズサイエンスヒルズ(食品関連)」、「フotonバレー(光・電子関連)」などの構想が推進されており今後のリーディング産業としての期待大です。又、今年の流行文句の様に使われる「インバウンド観光」にも注力しており、東京~富士山~京都をめぐるツアーは「ゴールドルート」と呼ばれ人気絶大で、浜松市内のホテル予約も最近はやや難しい現状です。別名「昇竜道(ドラゴンルート)」と呼ばれてもいますね。

因みに弊社の名前も「龍」の字が入っておりアジアの方々には受けが良いのかも知れません。

ビジネスチャンスは必ず存在します。厳しい環境の中でこそヒントが生まれアイデアを生かし、ゴールが見えて来るのではないのでしょうか？来年も皆様と共に走りまくりましょう！



●広報法務委員

委員長	石本 勝範
委員	松原 輝和
委員	佐藤 正明
委員	矢野 伸和
委員	當舎 弘造

●会員動向 平成27年12月25日時点

正会員	54社
賛助会員	21社
合計	75社

●告知板

3月4日(金)・・・平成27年度総会及び理事会

編集後記

業界を取り巻く状況が大変厳しい中で、平成27年度は新しい役員の皆様が支部活動やフローリング標準仕様書講習会を工夫して開催したほか、国交省から講師を招いて開催した法定福利費問題講習会、さらには、施工流通部会総会でのマイナンバー講習会など各方面の活躍ご苦労様でした。フローリングニュースがさらに会員の皆様に読んでいただけるよう編集者も頑張ります。

